

科目名	国語文法論			担当教員	今井 亨	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、国語科の教育内容に関わる事項について講義する。					
到達目標及びテーマ	（１）古典文法の基礎的な事項について、体系・原理とともに正しく説明することができる。 （２）付属語を主とした語句の働きをふまえて、表現者の意図に沿って古典文を解釈することができる。 熟読玩味のための古典文法					
授業の概要	古典文を対象にして、品詞分解・現代語訳という文献資料の基礎的読解作業を通して、今日も国語の学習として通用している「読解」や「解釈」という言語活動の規格化の実態を確認しながら、主に敬語・助動詞・助詞の意味・用法について解説する。授業計画に示した各回の内容に関して、古典の有名章段例をもとに横断的・包括的に解説する。 【デジタル技術利用 該当番号：①】					

授業計画	
第1回	敬語の種類・効用～敬語・配慮表現
第2回	敬意の対象～自己卑下・丁重語
第3回	係り受け～連用形の単独用法
第4回	接続構文～接続助詞・準体法
第5回	必然・偶然・恒常～「ば」
第6回	格～「の・が」
第7回	未定・既定、未知・既知～「む・らむ・けむ」
第8回	根拠と確信度～「なり・めり・べし」
第9回	反実仮想～「まし」
第10回	時の把握～「き・つ・む」
第11回	情動～「る・らる」「けり」「ぬ」
第12回	焦点と含意～係助詞・副助詞
第13回	紛らわしい語の識別
第14回	まとめ（テストを含む）
第15回	国語科教育と文法

事前学修	2時間	授業で扱う予定の文・文章について、教科書の現代語訳・語注等を読んで、疑問点を明らかにしておく。
事後学修	2時間	授業で取り上げた事項に関して、手持ちの文法テキストや古語辞典の記述を比較するなどして整理する。
フィードバックの方法	授業時に適宜指名して、理解度を確かめる。テストは随時返却して解説する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	小テスト＝助動詞の意味・訳語・活用表・識別法が、正しく理解できているか。

上記以外の試験・平常点評価		40%	テスト＝古典文法をふまえて的確に解釈できているか。文法術語を正しく用いて分析・検討できているか。	
補足事項				
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
理解しやすい古文	秋山虔	文英堂	9784578244127	2022年
参考資料	授業中に指示する。高校の時に使用した古典文法テキスト・古語辞典を持参すること。			